

# 伊勢原市社会福祉協議会 令和5年度決算の概要



## ～ 総括 ～

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の類型が第5類に移行され、私たちの日常生活は、これまでを取り戻し様々な活動が再開されました。また地域住民による地域活動も、後継者不足、高齢化という課題の中で、コロナ禍の3年間を乗り越え継続的に実施され、新たなサロン活動も開始されるなど活動が活性化しました。

そうした中で、本会として地域住民の皆さんが住み慣れた地域で安心して生活が送れるように、令和5年度を初年度とする「第5次伊勢原市地域福祉活動計画」に基づき、地域福祉推進のための各取組を推進しました。

高齢者福祉の推進では、高齢者の社会参加等を図るため、地域包括支援センターの協力のもと、身近な地域における活動・交流の場づくり、フレイル予防となるミニサロン活動の推進や、コロナ禍をきっかけに急速にICT化が進み、モバイルデバイスへの情報発信も増えていることから、スマートフォンの使用に不安のある高齢者を対象に「スマホ講座」を開催し、一人ひとりが適切に情報を受発信したり、AI等の新たなツール・サービスを正しく活用するためのリテラシーの向上に努めました。

また、認知症発症リスクが高まる中、行政書士、弁護士、税理士による専門相談をはじめ、成年後見・権利擁護推進センターの運営に努めると共に、地域連携ネットワークの要となる中核機関として成年後見制度の利用促進に努めました。

さらに将来を見据えた福祉人材の育成では、次代を担う小中高生を対象に、小学校での障がい理解のための「福祉教育」をはじめ、夏期保育体験、車いす体験、パラリンピック種目である車椅子バスケットやボッチャ体験などの「福祉体験」を通して、福祉意識の啓発、理解の促進に努めました。

\* 「リテラシー」とは「情報を適切に理解、解釈して活用すること」

## ～ 主な事業に関する事項 ～



### (1) 「ふれあい」の場づくり

新型コロナウイルス感染症の影響から、活動が縮小傾向にあった小地域で活動する団体の活動の支援、また介護予防や、見守り、孤立防止につながる高齢者のサロン活動では、新たに活動を開始する団体の設立を支援するなど、ふれあいの場づくり、その創出に努めました。

- ア ミニデイ（サロン）活動助成金交付実績：計42団体
- イ 小地域活動推進事業助成金交付実績：計10団体
- ウ 東成瀬子育てサロン：毎月第3木曜日



### (2) 「支え合い」の地域づくり

物価高騰等の影響を受け生活に困窮する世帯を引き続き支援するため、地域住民や市内企業の参加と協力の下、生活応援配分会を開催し、地域でつながり、支え合いの地域づくりに努めました。

- ア ひとり暮らし大学生生活応援配分会（6月）
- イ 子育て世帯生活応援配分会（7月）
- ウ 年末生活応援配分会（12月）
- エ 外国人向けサロン「そら Sky」：毎月第1火曜日  
計12回開催
- オ 放課後児童見守り活動「なるっ子」：毎週金曜日
- カ 放課後児童見守り活動「みどりっ子」：毎週火曜日

### (3) 福祉を支える「人づくり」

住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けられるよう、福祉サービスを担う介護人材の育成、また次代を担う児童・生徒を対象に、新たに車椅子バスケットやボッチャといったパラスポーツ体験を通して福祉意識の啓発と障がいへの理解を促進し福祉を支える人づくりに努めました。

- ア 介護職員初任者研修受講者：12人
- イ 福祉教育（体験）関係：高部屋小学校4年生・6年生、成瀬小学校4年生  
（車椅子、ボッチャ、手話、点字体験）
- ウ サマースクール（車椅子バスケット）



### (4) 「安心して暮らせる」まちづくり

判断能力が十分でない高齢者や障がい者が地域で安心して生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助に努めるとともに、成年後見制度の利用促進に向けた取組を更に強化するため、「中核機関」として成年後見・権利擁護推進センターの運営を行いました。

また、生活に困窮している世帯への貸付相談やコロナ特例貸付借受人の償還に対する相談等に対応するなど、安心して暮らせるまちづくりに努めました。

### (5) 組織の基盤強化及び自主財源の確保

今後、職員が順次定年退職を迎える中で、複雑、多様化する地域課題に対応していくため、職員の採用も含め、適切な職員配置による事業推進及び包括的な支援体制の構築並びに事務局体制の強化に努めました。

また、自主財源の確保においては、社協会員として新たに加入いただいた法人等もあり前年度を上回る結果となりましたが、善意銀行への寄付金においては、前年度からは減収となりました。